

No.146

公民館だより

平成24年11月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

出羽と丹後のきずな

由良地区公民館長 枝川 隆亮

出羽（庄内）と丹後、お互いの「由良」の交流が、今年は「丹後」（自治会三名・小学校関係十四名・歴史をさぐる会六名）が「庄内」を訪問するかたちで出来ました。

昭和五十三（一九七八）年山形県鶴岡市由良から佐藤儀助氏が由良地区公民館（当時藤本秀雄館長）を訪問され庄内に残る「蜂子皇子」の伝説を披露されたのが始まりがありました。

当時、丹後にはこの伝説は伝わっておらず、佐藤儀助氏と「由良の歴史をさぐる会」会長、故四方寿朗氏との交流により、

出羽（庄内）と丹後、お互いの「由良」の交流が、今年は「丹後」（自治会三名・小学校関係十四名・歴史をさぐる会六名）が「庄内」を訪問するかたちで出来ました。

昭和五十三（一九七八）年山形県鶴岡市由良から佐藤儀助氏が由良地区公民館（当時藤本秀雄館長）を訪問され庄内に残る「蜂子皇子」の伝説を披露されたのが始まりがありました。

当時、丹後にはこの伝説は伝わっておらず、佐藤儀助氏と「由良の歴史をさぐる会」会長、故四方寿朗氏との交流により、

と名付けたと言われています。昭和五十五年（一九八〇）年、「歴史をさぐる会」代表五名が庄内由良を訪問して以来、交流を続けています。

昭和六十（一九八五）年には「庄内の由良 丹後の由良友好の浜」宣言を締結し、今後の交流を約束しています。

平成元（一九八九）年からは両地区由良小学校の交流が始りました。

庄内と丹後は陸路約八〇〇キロ遠く離れていればこそ、交流を続けて価値があるのではないか

平成元年庄内の由良小学校長奥田先生の言葉を紹介します。

由良と由良子らの誓いはかたくして 声高らかに秋天渡る
友好的きずな確かに天に満つきよう庄内の空は晴れたり

友好 奥田 好 奥田

四方 寿朗

め数々の課題があります。
欲張らず、子供中心の交流が
続けられよう願っております。』



当時の蜂子皇子伝説は、古来より有名で、いまや県下の観光の一翼でもあります。交流をする

ると一口にいっても経費をはじ

行事報告

主事磯田充亮

今年は子供地蔵盆世話人会の配慮により同時開催をしました。

字撮影が計画され、例年より競技を縮小し開催しました。

「人文字」撮影には、この日

◎六月十七日(日)

グラウンドゴルフ大会(個人戦)

当日朝、霧雨が降りグラウンドの状態が悪く、肌寒い中開催しました。今年は男子十一名女子十五名が参加、六班に分かれプレー、順位を競いました。

今回は自前のクラブを持参される方が多く、当地区にもグラウンドゴルフが流行りつつあるのだと実感しました。生涯スポーツとして普及することを願っています。

成績(敬称略)

男子優勝	・野村孝行	(38打)
女子優勝	・中西栄子	(44打)
ホールインワン	・7回(延7名)	
最多打数	67打	

〔他の成績は「公民館がいど」でお知らせ済み〕

◎七月八日(日)

四部対抗バレーボール大会

女子三部が二十二連勝をか

◎八月十九日(日)

盆おどり大会(地蔵盆)

猛暑が続いた夏、夕方からどうなく涼風が吹く日でした。

試合結果

男子の部	女子の部
優勝	二部
準優勝	三部
三位	四部
四位	一部

〔他の成績は「公民館がいど」でお知らせ済み〕

◎九月二十三日(日)

由良地区運動会

小学校の閉校が決定し最後の合同運動会です。記念に「人文

けて第三十三回目の大会を開催しました。

今回は総勢一二九名が参加、中でも女子一、二、四部は打倒「浜野路(三部)」を合言葉に毎夜練習を重ね挑戦しましたが一步およばず三部が連勝しました。男子は二部が最終戦優勝をかけて一部と対戦ジユースを重ね苦戦し結果七年ぶりに優勝しました。今回は各試合ラリーが続き粘り強く応戦、応援にも熱が入りました。

会場は櫓、提灯が飾られ模擬店が開店し、都会の街角で賑う地蔵盆の雰囲気のようでした。踊りは三味線、太鼓の演奏と歌にのり、由良おどり保存会の皆様を先頭に子供達や踊りに駆けつけてくれた人達等が櫓を囲み「えいへいや」踊等を楽しみました。近くで見物する人達が廻りを囲み昨年の何倍もの人達が参加、中には孫の踊りを一日見ようと駆けつけたお年寄りも居ました。又、子供達のハシャグ声がお寺にこだまし盆おどり大会を盛りあげてくれました。

子供地蔵盆世和人会の皆様のアイデアと皆様のご協力により近年になく賑い、盛大な盆おどり大会となりました。

ありがとうございました。

結果は次のとおりです。

総合	リレー成績
優勝	二部(146点)
準優勝	三部(140点)
三位	四部(127点)
四位	一部(114点)

(ソフトボール大会は雨天中止)

歌えなかつた「ドナドナ」

由良小学校 教頭 青木 広典

由良小学校に赴任させていた
だけ半年が経ちました。初めて
の小学校勤務、初めての丹後勤
務で何もかもが新鮮に感じら
れ、楽しい毎日です。先日、お
昼の放送で「ドナドナ」が流れ
ていました。約四十年ぶりに聞く
く「ドナドナ」でしたが、自分
が小学生の頃、音楽の時間に悲
しくてこの歌が歌えなかつたこ
とを思い出しました。

私は兵庫県丹波地方の山奥に
生まれ育ち、今も暮らしていま
す。両親が昼間いなかつたせい
で祖父母が守りをしてくれまし
た。祖父は雌牛を一頭飼つてい
て、周りのほとんどの家も牛が
家にいるのが当たり前の生活で
した。農業一筋だった祖父たち
の時代に、牛飼いは貴重な現金
おもしろ半分で連れて行つたの

収入源だつたことでしょう。祖
父は子牛（ベコ）が生まれると、
雌なら高く売れるといそう喜
び、雄なら少しがつかりしてい
ました。そして競りに出すまで
大切に育て、私もペットを飼う
ようにベコの世話をしていました。

品評会で一度大きな賞を取
り、祖父がトロフィーや賞状、
記念品などをうれしそうに持ち
帰つた日のこともよく覚えてい
ます。また幼稚園に上がる前の
頃、祖父が私を「子牛の競り市」
に連れて行つたことがあります。
ベコや大人たちと一緒に乗せら
れた。トラックの荷台に何頭かの
母牛が『ベコどこ行つた？どこ
行つた？』と泣いているんやで
と教えてくれました。「牛みた
いな生き物でも泣くのかあ」と
初めて知り、夜になつてもいつ

か祖父が亡くなつた今ではわから
りませんが、随分いいかげんな
守り役だつたようです。いずれ
にせよ牛は「家族」とまではい
ませんでした。小学一年生の図工の時
間、先生から「何か好きな絵を
描きましょう」と言われ「牛と

自分」の絵を描き何かの作品展
で賞をいただいたこともあります
した。

ある日の学校の帰り、家の方
からやたらと母牛が「モーモー」
と鳴いているのが聞こえてきま
した。帰宅して祖母に「おばあ
ちゃん、牛どうしたん？」とた
ずねると「おじいちゃんがベコ
を売りに行つたんやで。それで
が終われ！」の一言でした。と
同時に平氣で歌つてゐる同級生
を見て「他の家も牛を飼つて
るのに悲しくないのかなあ」と
不思議に思つたり、「さあ、お
おきなくちをあけてえ、おおき
なこえでうたいましょくね」と

すような泣き声を胸を痛めなが
ら聞いていました。それ以後、
年に一度帰宅時に牛の泣き声が
聞こえてくると「あー、ベコが
売られたなあ」とわかり、母牛
のことを不憫に感じていました。

「ドナドナ」を習つた時、私は
当然のごとくその歌詞に大きな
衝撃を受け、歌うどころではな
い心境になりました。「♪かわ
いい子牛、売られていくよ
悲しそうな瞳で見ているよ」な
んて胸が詰まつて歌えるはずが
ありません。「早く音樂の時間
が終われ！」の一言でした。と
同時に平氣で歌つてゐる同級生
を見て「他の家も牛を飼つて
るのに悲しくないのかなあ」と
不思議に思つたり、「さあ、お
おきなくちをあけてえ、おおき
なこえでうたいましょくね」と檄
を飛ばしてゐる先生を苦々

しく思つたものです。

今回久しぶりに「ドナドナ」を聞いて、自分が子どもだった頃のこと、牛を飼っていた昔の生活、愛情をかけてくれた祖父のことなどを懐かしく思い出しました。母校の小学校の校舎はすべて建て替わりましたが、古い木造の校舎やよく遊んだ家庭などははつきりと記憶に残っています。はしゃいだり、怒ったり、笑い転げたり、泣いたり、叱られたり、けんかした小学校の六年間は一番の思い出です。

由良の子どもたちは私たちが子どもだった頃と同じように、大勢の家族や地域の方々に大切にされながら生活していると感じます。ここは昔ながらの地域の良さが残つている数少ない貴重な場所であると思います。由良小学校は閉校になりますが、由良の子どもたちはいつまでも由良小学校の多くの思い出を大

切にし、家族や地元の人たちに愛されて育つたことを忘れず、誇りに感じながら大きくなつていくと思います。私たち職員も今年度が子どもたちにとつても地元の皆様にとつてもかけがえのない思い出が刻まれる由良小学校の一年になるよう微力ながら手伝いができるたら嬉しいと感じています。

余談になりますがつい最近、偶然にも新聞の特集でこの「ドナドナ」が取り上げられていました。実は「ドナドナ」はユダヤ人が作った民謡で第二次世界大戦時、ナチスのユダヤ人への迫害で収容所に送られる人々のことを歌つたものだと説明が載っていました。これからこの歌を聞く時、これまで以上に複雑な気持ちになりそうです。

第三十二代崇峻天皇が蘇我馬子と対立し、馬子の命令を受けた東漢直駒により暗殺された。第一皇子である蜂子皇子は身の危険から従兄の聖徳太子や他の重臣の助けを得て脱出し丹後由良湊にたどり着いた。

その後、蜂子皇子は幾日も難行苦行の修業をされて山頂に出羽神社を建てられた、この時をもって出羽三山神社御開山の年とし蜂子皇子を「御開祖」と仰

庄内由良を訪問して

由良歴史をさぐる会 飯澤 登志朗

去る八月二十一日から八月二十四日まで庄内由良を訪れた。

庄内由良の八乙女海岸沖まで来ると荒波にそそり立つ断崖絶壁と巨岩が眼前にあり、その岩の上に八人の美しい乙女が笛の音に合せて舞いながら蜂子皇子一

五十五年ごろから始まった。蜂子皇子については、公民館だよりNo一二九〇一三〇号に故山下憲弥氏がくわしく寄稿され、また多くの方々も寄せられているが簡単に触れてみたい。

ある日、東の山並みを見ると紫の雲が漂つていた、いつの間に飛んできたのか目の前に三本足の鳥が一羽羽ばたいていた。鳥に導かれて付いていったところが羽黒山であつた。

その後、蜂子皇子は幾日も難行苦行の修業をされて山頂をもつて出羽三山神社御開山の年とし蜂子皇子を「御開祖」と仰

いでいる。

出羽三山とは、羽黒山、月山、湯殿山の総称である。

今回六年振りに訪れた庄内由良は鶴岡市の中心から西へ十七kmといったところにある集落で丹後由良と同様に海と山に囲まれた風光明媚な静かなところである。

鶴岡市は山形県の日本海側、米どころ庄内平野の中心に位置し人口十三万人の都市である。江戸時代には庄内藩（鶴岡藩）酒井氏十四万石の城下町として古くから栄え、史跡や文化財が今も多く残されている。

訪問にあたって地元の方々に各所を案内していただいたが、もともと論修道である出羽山を欠かすことは出来ない箇所であるがその他にも多くの興味ある場所へご案内いただいた。

藤沢周平記念館や渡辺星村文化創造館、そして慶應義塾大学先

端生命科学研究所等である。

藤沢周平は鶴岡市生れで多くの小説を発表しているが昭和四十八年に直木賞を受賞その他にも文学賞を受賞されている。「蟬しぐれ」や「たそがれ清兵衛」等TVドラマにも登場し多くの方がご覧になっていると思う。

また、渡辺星村は彫刻家として有名であり、作品は生命の水をくみ取り造形化に取りくまれているが今回訪問の目的の一つであつた「ガラシャ像」は東京の松本美術館にあり眼に触れることが出来ず残念であつた。

さらに、慶應義塾大学の研究所では素人の私に研究内容を理解することは出来ないが、地元高校生を研究助手として受け入れたり、地元出身者を重点的に雇用する等地域に活力を与えていた。

研究の内容は医療バイオ、環境バイオ、食品バイオ等多岐に亘り、長い将来その先端生命科学研究

が大きく世界へ飛び出していくであろうと願っている。

鶴岡市役所訪問から鶴岡市立由良小学校との交流等当地の新聞やTV放映等今回の訪問は大きく取り上げられ意義のあるものであった。

莊内日報には「一四〇〇年前の伝説が縁、草の根交流」の見出しでくわしく報じられ、榎本政規鶴岡市長は「鶴岡の由良は皆さんの地名を頂いた。行政主導でなく民間が思いを込めて行うことが長い交流になる」と話した。また庄内由良自治会の佐藤峯男会長は「丹後の由良は先祖の地。その思いを今後も、自治会同士が中心になつて受け継ぎ、絆を強めていきたい」と述べられている。

最後の夜は地元の方々との懇親会が催され、鶴岡市副市長を始め多くの方々が出席され、時間が過ぎていく内、土地の方々まる出しで話合い、握手を交わ

しなごやかに夜は更けて行つた。

（チヨット余談、散会後ふらつと近くの居酒屋を覗いてみた、六～七人掛けると一ぱいになる小さな居酒屋「海華」である、そこで先程分れた地元の人と再会再び盛り上がった。）

最後になり恐縮するが、自治会長佐藤峯男氏を始め、連日ガイド役を務めていただいた伊藤吉治氏や多くの方々にご多忙のなか大歓迎をしていただき改めて心から感謝を申し上げたい。

なお由良自治連合会長中西洋一會長が「由良小は児童数の減少で来年度から閉校となるが、

これからも盟約に基き交流を続けたい」と謝辞を述べたが私達は「友好浜の宣言」に基き交流を続けていく責任があると考えている。

庄内の皆さん本当にありがとうございました。

山形の人たちと交流して

六年 大森帆貴

庄内由良小でぼくたちの学校のいい所や楽しいことを発表しました。

発表が終わるとじやんけん列車では、一番はじめに負けました。その次の「マーチングバンド」では音符も見ずにえんそうを完ぺきにしていてすごいなと思いました。

最後に花笠おんどをいっしょ

におどつた。だけどぜんぜんおどりが分からなくて、がんばつておどりました。

夕方になると山形の五、六年生といっしょに夕食を食べました。その時に、山形の人たちが、一発芸をしてくれて交流が、深まりよかつたです。

また、山形の人たちと交流がしたいです。

山形に行つて

六年 中西智也

ぼくはバスに乗つて山形に行きました。バスは長かったです。ぼくたちは加茂水族館に行きました。そこはクラゲ世界一の水族館でした。すごく小さなクラゲがありました。それは虫めがねで見たらよく見えました。他にもたくさんクラゲがいました。売店ではしようごくんが

おどつた。だけどぜんぜんおどりが分からなくて、がんばつておどりました。夕方になると山形の人たちと一緒に花笠おんどをいっしょに踊りました。

山形に行つて

六年 室澤戒依

ぼくはバスの中でねむたかったです。けつこう遠かったのです。けつこう遠かっただけで、すごい歓迎をしてくれて、手に水をかけました。休けいをしている時に目がさめてまたねてしまいました。

山形について、ホテルについて、すごい歓迎をしてくれて、手に水をかけました。休けいをして羽三山についてお参りをして、手に水をかけました。休けいの時神社の人があやつをもつてくれておいしかったです。神社の本でんで祈とうをしてくれました。足のうらがしびれました。祈とうがおわった後に、精

ングバンドで迎えてくれました。上手だったです。そしてイスに座りぼくはあいさつをしました。きんちようしたけど最後まで言えました。そしていつにおどつた。おどりました。おどりが分からなくて、がんばつておどりました。

夕方になると山形の五、六年生といっしょに夕食を食べました。その時に、山形の人たちが、一発芸をしてくれて交流が、深まりよかつたです。山形は楽しかったです。

しよう内由良小に行きました。最初体育館に行くとマーチ

楽しかつたしょう内由良へのほうもん

五年 上 羽 省 吾

ぼくたちは、八月の二十一日のよる七時にしょう内由良へ向けて出発しました。しょう内由良へは、朝の五時すぎに着いたので、六時半までサービスエリアで休けいしていました。それからホテルに入つて、朝食を食べて、つるおか市の市長さんに会いに行きました。それからいろいろな所をまわりました。そしてホテルに帰つてきたら、ちよつと自分たちのへやで休んでから夕ごはんでした。それからおふろに入つてねました。

次日の日は、まず、はじめにしょう内由良小をおとずれ、交流をしました。しょう内由良小の人は、マーチングバンドでかんげいしてくれ、ラッパやいろいろな楽器をつかつてやつていました。それで夜は、しょう内由良小の五六六年生と夕ごはんをたべました。

もう、しょう内由良小と交流は、ないかもしだいけど、できるかぎり交流をやめないでほしいです。

今年の運動会は特別なものだつたとぼくは思います。なぜかとすると、由良小学校は今年で終わりで、小学生が由良小学校の子として参加するの最後だつたからです。

それと、今年の運動会は人文字をつけながらぼくは本当にこんなので、できるのかなあと思いました。しかし学校にある画像を見る限りつばな人文字になつていました。

由良小最後の運動会

六年 岡 本 凌 輝

今年の運動会はとてもいいに残りました。来年は中学生として地いきの子としてがんばります。

由良小最後の運動会

六年 大 石 真 也

今年の運動会は由良小としてさんかするのが最後だから、特別な運動会になつたと私は思いました。

それで、私が一番いんしょうに残りました。

二番目にいんしょうに残ったことは、全員リレーです。一位になれなくて、くやしいけど、二位になれてよかったです。

由良小最後の運動会

六年 小 室 麗 妃

今年の運動会は由良小としてさんかするのが最後だから、特別な運動会になつたと私は思いました。

それで、私が一番いんしょうに残りました。

二番目にいんしょうに残ったことは、はまの子太こです。理由は、練習のせいかがだせたことと、本番でまちがえずにたたけたからです。練習では、最後が少しばらばらだつた

今年は由良小の最後の運動会でした。小学生のリレーの練習のときでは注意しても遊んでいる人とかもいてリードもあまりしてくれなかつたから負けるかなあと思つたけど運動会のとき勝てよかったです。

今年は由良小の最後の運動会が教えてくれて本番では上手になりました。親子しんけんリレーでは学校と子どもと親で親はめつちや速かったです。そう合ゆうしょうしたのは宮本でした。

今年の運動会は由良小としてさんかするのが最後だから、特別な運動会になつたと私は思いました。

今年は由良小最後の運動会だったけど中西さんや小林さん

が教えてくれて本番では上手になりました。親子しんけんリレーでは学校と子どもと親で親はめつちや速かったです。そう合ゆうしょうしたのは宮本でした。

今年は由良小最後の運動会だったけど中西さんや小林さん

運動会のこと

第146号(8)

六年 田 村 那 奈

九月二十三日は運動会でした。

私は、最初、百メートル走に出了しました。絶対最後になると思っていたけど、精一杯走りました。

次の障害走では、まずハードルを跳びました。跳ぶ時に、ハードルが高くてちょっとこわかったです。他にも、ボールをほうきではいたり、ダンボールでぞうきんがけをしたりしてむづかしかつたです。

小学生リレーは、色別でしました。私たち青チームでした。私の番が来て、バトンをもらいました。帆貴君に最後にぬかされただけどがんばって走りました。同じチームの智也君や真也君が速くてすごいなあと思いました。

午後は、はまの子太鼓で始まりました。はっぴを着て入場門にならびました。

思い出に残る運動会

五年 小 林 優 晖

九月二十三日曜日に運動会をしました。

一番印象に残ったのがザル引きです。去年は、全然役に立たなかつたけど今年は、一番として、一位になり、二番にわたすこと

ができたので、その結果は、一位かかりました。バトンをもらつてから、三田先生にぬかされないよう、最後まで一生懸命走りました。ぬかされずにすんでよかつたです。PTAチームが勝つて、二位が子供チームでした。

父さんと、三田先生と一緒に走りました。バトンをもらつて

て、でるのは、ザル引きだけだったけどいい結果がでてよかったです。たいこやリレーでは、失敗の部分もあつたけどしつかりまでやりきれ、いい成績がでてよかつたです。

人文字では、大ぜいで人文字ができるよかつたです。ぼくは、じっとするのが大変だつたけど、いい人文字になつてよかったです。

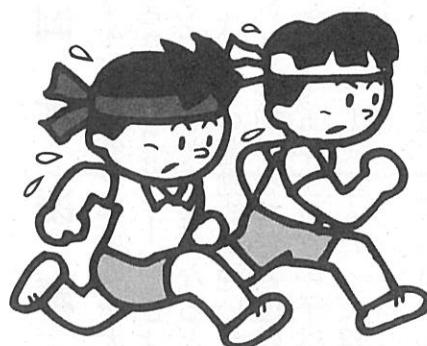
少し雨がふつていたけど少しがりぼくの役目ができたと思いました。

最後の種目で四位でまけたけどほかの種目では、上位にいて

よかつたです。

最後のあいさつは、きんちようやくやしさ、そして、由良小学校最後としての運動会という悲しさなど、いっぱいの思いがあつて、つまつたけど、自分で全部できたことがよかつたです。

今年の運動会は、とても良い思い出になりました。



丹後むかしばなし

「重女」

みもり あきら



むかし、江戸時代は文政の頃由良の村に重女という女の人がおりました。

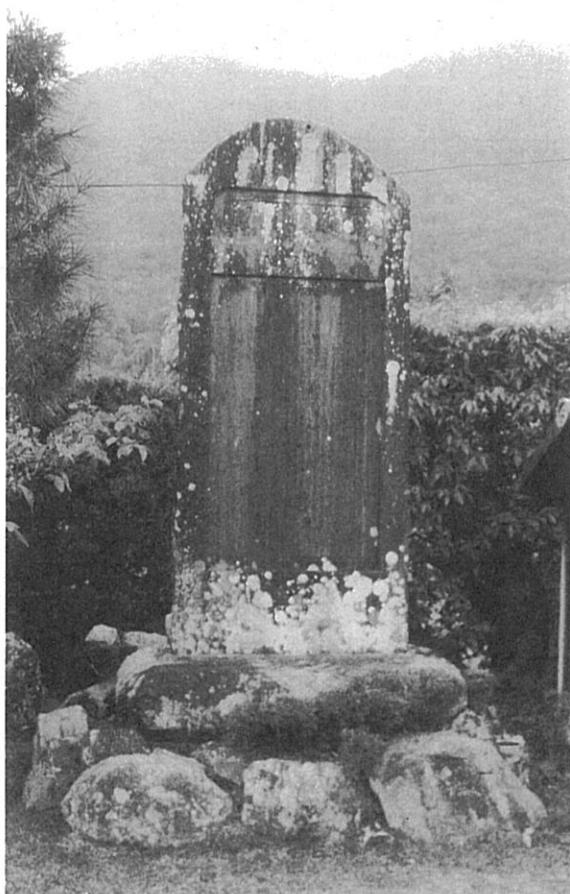
夫の平吉は水主（船乗り）のかたわら、農業をしておりましたが、家は貧しく、くらしは樂ではありません。

その平吉が大病になり、歩くことも出来なくなつたのです。その上、おじいさんとおばあさんも病氣で寝ていました。



重女は三人の病人を看病しながら、米つき人足などの仕事をして生計を立て、毎日薬を求めて、十年間一心に働きました。

おじいさんと夫の平吉には好きな酒を毎日飲ませ、おばあさんの体をさすりながら、夜なべに精を出しました。



重女の碑

お金が無い時は、自分の髪の毛を切つて売り、そのお金で薬や、お酒を買っていました。

しまいには、自分の髪の毛はまったく無くなりました。

また、田んぼに行く時は夫を背負つて行き、田のあぜに座ら

参考文献

由良地区のむかしばなし

松本師正 編

「重女」石碑 碑文より



せて慰めながら、汗を流して働きました。

その十年間に及ぶ献身ぶりが田辺藩の殿様の知る所となつて重女の孝行・行いを讃めて褒美が出たといわれています。

いま、由良の如意寺境内に、重女の事績を称え伝える石碑が建っています。

川柳

宮津番傘川柳会 大森 美智子

哲学の道で将来語り合う

おもちや箱 人の生きざま かも知れぬ

ラシク付け されてさ迷う 羊たち

彼岸花の赤たましいが揺れている

終章を飾る紅葉のさんざめく

坂本妙子

英雄にも雑魚にもなった 井の蛙

輪の中のワフトな人に二重丸

泳ぎ切ってやつと掴んだ青いとり

今日も晴 静養中のかたつむり

隠された刺 やんわりと身を責める

応援歌

作 矢 谷 浩

(ズンドコ節の替え歌)

①(ア、ヨイショ一ヨー) ここは宮津の、丹後由良
朝日に満ちた、その中に

(ア、ヨイショ一) 潮風うけて、育ちたる
我等が、浜野路応援団

②(ア、ヨイショ一) 東の彼方を、望むれば
歴史千歳の、由良の戸よ

(ア、ヨイショ一) 東の山に、出る月は
丹後由良の、空照らす

③(ア、ヨイショ一) 北の彼方を、望むれば
大きく広がる、日本海

(ア、ヨイショ一) 青く澄んだる、その姿
浜野路健児の、故郷よ

④(ア、ヨイショ一) 南の彼方を、望むれば
丹後一の、由良川よ

(ア、ヨイショ一) ゆつたり流れる、その姿
浜野路健児の、心意気

⑤(ア、ヨイショ一) 西の彼方を、望むれば
どつしり構える、由良ヶ岳

粉雪混じえ、吹き降ろす
風に尚も気合に入る

(ア、ヨイショ一) 春は桜が、咲き乱れ
夏は海で、泳ぎたる

(ア、ヨイショ一) 秋はお神輿、ワツシヨイと
冬はコタツで、雪見酒

(ア、ヨイショ一) 幾年月日が、流れても
変わらぬ、故郷海山よ

(ア、ヨイショ一) 届け我等の、歌声よ
響け浜野路、応援歌

(ア、ヨイショ一) 故郷を愛する、応援歌

○番外編
○長き歴史の、由良小の

今日は最後の、運動会

(ア、ヨイショ一) ひとりひとりの、笑顔寄せ
心に残る、一日よ

(ア、ヨイショ一) ○春夏秋冬、いつの日か
泣いて笑った、遊び舎よ

多くの思い出、わすれない
(ア、ヨイショ一)

輝く由良小、ありがとう
我らの由良小、ありがとう

(ア、ヨイショ一)

お医者は「病者の唯一の友」 —医者の道—

小西衛

先日、内臓の調子が悪かつたものですから、総合病院へ精密検査などを受けに行つたのですね。顔も青ざめ身体もヒイヒイいっておりました。「もうちょっと大丈夫だ」と、言われたのですが、「もうちよつと」いう先生の言葉がやけに気にかかり、聞き直したところ「だからもうちよつと大丈夫だから」と。言う事は、僕は天国の入り口に立つて、ドアをノックするかもしれませんね（笑）。「・さまのご冥福を・」（笑）、「アーメン」（笑）。そんなこととんでもないです。

げたのは、やはり大阪の洪庵の
適塾でしよう。緒方洪庵は、開業医と医学塾を始めるのですけれど、なぜか塾の方に人気が集まりました。学んだ人を挙げますと、福沢諭吉（慶應大学創立者・医学部も超有名です）、大村益次郎（のちの村田蔵六）、長与専斎、橋本左内といった人々が有名です。

僕は医学（史）という難しい世界については、門外漢であります。洪庵の塾では、簡単な病理学と動物の解剖ぐらいの程度であったようです。大村益次郎は豚の内耳の解剖が得意だったといわれていますね。だからおもにオランダの語学勉強が中心であったようです。ようするに、ばい菌というものが病気を起こすということが知られていて

ない時代の人々でしたから、通用しました。のどかな医学の時代の話でありました。

福沢諭吉は、咸臨丸で志しを同じくするツワモノ達といつしょにアメリカ合衆国に視察の旅に行つたおり、キカイ文明を自慢そうに日本人に説明している男に対して、ただ一人、諭吉一人だけ「自由とは、どういう意味なんですか」「人権とは、どういうことか」「義務とは、何んですか」と、しつこく聞いていたという。「ただただ諭吉先生を尊敬するだけであります。」医学を勉強するということが、ここまで幅が広い見識が備わっていくものなのですね。これはまちがいのない、医学の世界の話です。

村田藏六は、百姓の身分でした。緒方洪庵塾を卒業しやがて江戸に出まして、ちょうど鈴ヶ森という所に刑場がありまして、解剖の講義をしていましたところに、桂小五郎が通りかかり、

感心して長州に戻つてくれと口説きます。ほどなく村田藏六は、官軍（薩摩・長州連合）の総司令官になります。（何んでお医者さんが官軍の総大将になれるの？と、思われるでしようが、これが医学を勉強した人のスゴいところです）もちろん藏六は軍隊の動かし方などは習つたこともあります。しかし、將軍という言葉はゼネラルといつて、要するに「総合者」という意味です。歩兵とか砲兵とか騎兵といったさまざまな価値を総合して、ものを考える。つまり医学的な頭、臨床的な頭（実際に広く、強く見る）が必要になります。いろんな事態にいえる言葉ですが、精神力だけではだめなんですね。お医者というのは、非常に幅広い知識と知恵そして技術が必要だということです。（ここらあたりが僕の感想文の前半のテーマです）

は塾にいた時代に洪庵先生から、こう言われました。「俺の時代は過ぎた」「君、俺はもう古いんだよ」と、「長崎にポンペという先生が来ているから、そこで学びなさい」と。洪庵先生は、偉い人ですね。なかなか言えない言葉でありますゾ。

江戸におきましては、順天堂であります。佐藤泰然が千葉県佐倉市で作った塾が、やがてその子、松本良順によって江戸で有名な塾になります。現在の順天堂大学・順天堂大学附属病院であります。

江戸幕府が初めて正式に招いた、ポンペ・ファン・メールデルフオールト博士が、本格的な西洋医学を作り、いってみれば生徒会長として松本良順も参加します。(良順は、明治になり官軍の陸軍軍医総監になります)ポンペ先生は、良順ら学生に「病院を作らなければしょうがない」と言われ、幕府の最初の官立病院が作られます。

これは、長崎人にとってもかなり文化的なショックだったであります。バカげた身分社会がびつてしましました。(現在で言うならば、A階級・B階級と言わる)それが病院です。残念ながら丹後由良には、A階級の人は、いない。それが病院という平等の建物の中に入るわけです。たとえば、官立病院の控え室にイカつい髭を蓄えている、お侍さんと、奥様が仲よく座っていて、すぐ横に町人やお百姓さんが座っているのですヨ。(江戸幕末の病院の光景を想像してみてください。皆さんだって笑ってしまうでしょ)長崎の(官立病院)街では、ヨーロッパ風民主主義が入らざるを得なかつたわけであります。

ポンペ先生の言葉にありけるように、お医者というのは「病者の唯一の友」であります。無論、看護師(今は、病院のエンジニアと呼ぶのですよネ?)や

母の寝顔を見ながら、強く思っています。研究ばかりを続けていたと、それが病院といふ等の建物の中に入るわけです。たとえば、官立病院の控え室にイカつい髭を蓄えている、お侍さんと、奥様が仲よく座っていて、すぐ横に町人やお百姓さんが座っているのですヨ。(江戸幕末の病院の光景を想像してみてください。皆さんだって笑ってしまうでしょ)長崎の(官立病院)街では、ヨーロッパ風民主主義が入らざるを得なかつたわけであります。

母が昨日、ニコニコしながら嬉しそうな表情で、宮津市由良診療所から帰つて来た時の光景が、浮かんできました。○○――このマル印は、感謝の涙なり!

本作文中の引用は、次の文献に基づいています。

『花神』著者 司馬遼太郎
『胡蝶の夢』著者 司馬遼太郎
『この国のかたち』(一)～(六)
著者 司馬遼太郎

事務関係者を含めてです。病人は、孤独なものですね。そうですよネ。今、僕は、年老いた母の寝顔を見ながら、強く思っています。研究ばかりを続けていたと、それが病院といふ等の建物の中に入るわけです。たとえば、官立病院の控え室にイカつい髭を蓄えている、お侍さんと、奥様が仲よく座っていて、すぐ横に町人やお百姓さんが座っているのですヨ。(江戸幕末の病院の光景を想像してみてください。皆さんだって笑ってしまうでしょ)長崎の(官立病院)街では、ヨーロッパ風民主主義が入らざるを得なかつたわけであります。

母が昨日、ニコニコしながら嬉しそうな表情で、宮津市由良診療所から帰つて来た時の光景が、浮かんできました。○○――このマル印は、感謝の涙なり!

平成23年度 宮津市人権標語入賞作品

ふりむくと あなたの笑顔と さしだす手
だいじょうぶ 力がわき出る メッセージ
咲かせよう 笑顔の花と 思いや
大ありがとう 誰もが喜ぶ 合い言葉

(中学校1年)

(中学校2年)

(中学校3年)

(中学校3年)

国宝「海部氏系図」と古代舞鶴 「古代舞鶴」は海部氏系図のなかにあつた。

京都丹後学会会長
丹後ふるさと観光大使

坂本与一郎

海部氏 あまべうじ 漁業を中心とする海人（あま）関係の氏族。部（べ）として編成された海部の分布は、古代の文献などによると、太平洋沿岸では千葉県を東限とし、日本海沿岸地域では福井県（越前国坂井郡海部郷あたり）までである。

丹後には熊野の熊野郡海部郷、加佐郡の凡海郷があり、与謝郡には海部直（あまべのあたい）ないし海直が存在した。「新撰姓氏録」（左京神別）には「但馬海直」がみえ、但馬国城崎郡には海神社（式内社）が鎮座する。宮津市の籠（この）神社は丹後国一宮古社であり、社家蔵の海部氏古系図には、社家海部直氏の貴重な系譜が記されている。海部には安曇（あづみ）系

の漁人タイプと宗像（むなかた）系の船人タイプがあつたが、丹後の海部は日本海文化圏においても重要な役割を果たした。

海部氏系図

あまべしけいす

宮津市の籠（この）神社宮司家に伝わった籠名神社祝部（ほりべ）の系図。一巻。国宝。

始祖彦火明命より海部直（あたい）田雄に至る歴代が記される。九世紀後半の成立。古代地方豪族の変遷の姿を明らかにした系図で、史料価値が高い。（『京都大事典府域編』淡交社刊より）

丹後の国宝は、大寺院や大伽藍ではない。いずれもソフトである。「海部氏系図」「勘注系図」「雪舟天の橋立図」である。

戦後六十三年、二〇〇〇年の



「京都の自然200選」より転載

141 由良の門（戸）

古代より由良川の河口は由良の門（戸）と呼ばれ、水運交通の要衝として栄えてきた。彦火明命の御子である天香語山命は伊去奈子嶽で、母神である天道日女命から天祖より賜った弓矢を受けられた。天香語山命は豊受大神をお祀りするために相応しい清地を探すためにその弓矢を発した。その後百八十軍神を率いこの由良の水門に到着した時、父神である彦火明命に逢い、神宝の邊津鏡を受けられ、その鏡を祀って国土を造り修めるように委ねられた。

されたこの神社の持つ系図は天皇家より古く、八十二代の現当主まで「秘して相伝する」と伝えられた。

最大のピンチは、「水戸藩藩主、徳川光圀は、明暦三年（一六五七）年に『大日本史』編さんする時、海部氏系図の拝観を要請したが、永基（勝千代）は、これは『ご神体』であるからといって、その要請を断つた

とのことを、八十一代海部毅定

宮司が先祖よりの口伝として著者に話された。」（金久与市著『古代海部氏の系図』学生社刊より）

国宝海部氏系図は、八七年（貞觀十三年）から八七七年（元慶元年）の間に作成されたと考えられている。丹後一宮籠神社の宮司海部家に伝えられた日本最古の家系図のひとつ。系図には彦火明命（ヒコホアカリノミコト）を始祖として、代々の名が記され、国造りに任じられたことや、いつからいつまでは祝（はぶり）神官として奉仕した

ことなどが書きこまれているまた人名のうえに「丹後國印」が押されている（堅【たて】系図、宮津郷土資料館に複製がある）。現在の宮司海部毅成氏は八十二代目、禰宜海部毅成氏八十三代と続くのである。

**彦火明命の息子で、
尾張氏の遠祖天香具山命**

（高倉下）

天の香具山

天の香具山を御存知だろうか。

大和三山のひとつ。

春過ぎて夏来るらし白榜（しろたえ）の

衣乾したり天の香具山

と万葉集に詠まれた。天武天皇の皇妃（天智天皇の妹）の歌

このように、香具山の土とい

うものは、「大和の物実（ものざね）」ということである。「物実」とは、「その物のもととなるもの」という意味である。つ

まり、「大和の国の魂」というべきものであるということだ。

土とは、その国の国土の靈質、それを手に入れるということ

が、その国の自由を制御するということになる。香具山の土を奪うということは、その国の魂

言うには、「天香具山の社して行う呪言」をせよ。かくのごとくせば、おのずからに平（む）きしたがいなむ」と言う。つまり、香具山の土をとり、それを祭り、呪言をしたら国が治まるというのである。

そこで、神武はオトカシとシイネツヒコを香具山に派遣し、持ち帰った香具山の土でヒラカなどを作つて祭つたところ、戦いに勝利に、やがて、大和入りを無事果たしたのである。（中略）

このように、香具山の土とい

うものは、「大和の物実（ものざね）」ということである。「物実」とは、「その物のもととなるもの」という意味である。つ

まり、「大和の国の魂」というべきものであるということだ。土とは、その国の国土の靈質、それを手に入れるということ

が、その国の自由を制御するということになる。香具山の土を奪うということは、その国の魂

を奪うということなのであるう。

さて、香具山といえば、畠傍山、耳成山と並ぶ、大和三山の一つであるが、この名前の人方がいる。その名は、「天香具山命（アメノカグヤマノミコト）」である。これは、天火明命（アメノホアカリノミコト）の子であり、「日本書紀」にも、「天火明命の児、天香山命、これ、尾張連等の遠祖なり」とある。尾張氏といえば、海部氏とは同族であり、「海部氏勘注系図」にも、もちろんその名がある。

ということは、これは、何かとても大事なことがこの話には含まれているのではないだろうか。

「大和の国物実」とは、「香具山の土」、「香具山」とは、人名に「天香具山命」とあるが、これは、天火明命の子である。

つまり、大和の国物実とは、もともと天火明命にあつたのでないか。火明命は、丹後の海

部氏の祖神である。

前ヤマトを創ったその精神的支柱がどこにあったのか。

このようにして考えて初めて古代の闇に光が差し込むのではないか。

(伴とし子著「卑弥呼の孫トヨはアマテラスだった」明窓出版刊より)

真名井原と香語山

この吉佐（与謝）宮こそ、現在の籠神社の奥宮、真名井神社の地にほかならないとされる。今もこの地に、磐座（いわくら）が主座と西座と鎮座している。そして、このあたり一帯を真名井原とよび、裏の山を香語山ともいった。海部氏の「勘注系図」では、始祖の彦火明命の児が天香語山命と記されている。

さらに火明命および天香語山命の注記として高天原にいた時に火明命は大己貴（おおなむち）神の女（むすめ）、天道日

女命をめとり、天香語山命が生まれた。火明命と天香語山命は丹波国の凡海嶋に降臨し、国土を修造しようとして丹波国の伊去奈子嶽にいたる。そこで母にあい、この国は豊受大神のいます国であるから、大神を奉斎していない、汝に弓矢を授けるから天神を奉斎できるよう國をととのえよ、といわれた。香語山命はその弓矢もって当國加佐郡矢原山にいたり留る。その南東に真名井原の荒水が湧き出たので、神籬（ひもろぎ）をたて大神をうつし祭り、田を開墾した。火明命はその後、由良の水門（みなど）に移り、神宝の一つ、辺津鏡を子の香語山命に分け授け、「汝よろしくこの神宝を斎（いわ）い奉り速やかに國土を造成せよ」と宣言する。

彦火明命の又の名は饒速日（にぎはやひ）命だが、八州（おおよしま）を治めていた。速日命説と大きく異なる。日向降臨では瓊々杵尊が日向の高千穂峯に降臨する。一方、海部家では瓊々杵尊の兄弟である火明命が丹波へ降臨した、となる。

わち）国に降つた。その後、大和国、鳥見白辻山に移り登美屋彦の妹、登美屋姫をめとり可美真手（うましまで）命が生まれる。そこで弓矢および神の衣帶手貫（たぬき）等を登美屋姫に授け、火明命はまた大和から丹波国へかえり、凡海（おおしあま）の息津嶋にとどまつた。

〔古代海部氏の系図〕金久与市著 学生社刊より）

この時、大宝元（はじめ）、辛丑年三月に、当國に地震が起これり、息津嶋は一夜にして海中に没し、わずか二峯が海面より顔を出しているだけだった。

そこで火明命は佐手依姫命とともに養老三年三月二十二日に籠宮（籠神社）に天降りされたのである、と。

丹後の国丹波（たんば）（京都府中（なか）郡）比治（ひじ）の里（さと）の、比治山（ひじやま）の山頂に井戸（真名井（まない））があつて、あるとき八人の天女（てんによ）が舞い降りてきて沐浴（もくよく）（水浴び）をしていた。たまたま通

りかかった老夫婦が、ひとりの天女の羽衣を奪つてしまつた。その天女は恥じて水から出られず、そうしておいて老翁は、

海部家では、多年、皇室に遠慮して丹波降臨説を明記した系図、天皇家と親戚になる系図を固く秘蔵し、公開しなかつたのである。

「私たちには子供がないから、どうか留まつてほしい」

と懇願する。やむなく従つた天女は、そのうち老夫婦の家を豊かにするが、增長した老夫婦は、天女を家から追い出してし

まう。さまよい歩き、竹野（たかの）の郡（こおり）（京都府竹野郡（たけのぐん）の船木（ふなぎ）の里の奈具（なぐ）の村（京丹後市弥栄町（やさかちょう））にたどり着いた天女（ふなぎ）（船木）は、「ここにやつてきて、ようやくわが心は穏やかになりました」と告げ、この地に住むようになつたという。

この天女が、いわゆる竹野の

する豊宇賀能売命（とようかのめのみこと）（豊受大神（とようけのおおかみ）になつたといふのである。（金久与市著「古

代海部氏の系図〔学生社刊より〕

また、丹後にはこんな伝承も

残つてゐる。豊受大神が天降つた「伊去奈子（いさなご）」山

には、いろいろな名前がある。「比治山」「まない山」「足占山（あしうらやま）」といい、一山四名をもつ神の山である。ここで、なぜ「足占山」というのかといふと、天香語山命（アメノカゴヤマノミコト）と天道姫命が一緒に豊受大神を祀るためのお供え物をつくろうとすると、井水がたちまち変わつて炊けず、そこで天道姫命は葦を抜いて大神の心を占つて、他の土地に靈水を求めたから、葦占山が「足占山」になつたという説がある。また、豊受大神が出て行つたあと、大神を慕いその行方を占つたことから足占山というという説もある。地元には様々な形で豊受大神が生きているのだ。（伴とし子著「卑弥呼の孫トヨハアマテラスだつた」明窓出版刊より）

な世「足占山」というのかといふと、天香語山命（アメノカゴヤマノミコト）と天道姫命が一緒に豊受大神を祀るためのお供え物をつくろうとするが、井水がたちまち変わつて炊けず、そこで天道姫命は葦を抜いて大神の心を占つて、他の土地に靈水を求めたから、葦占山が「足占山」になつたという説がある。

（昔（豊受大神）が、この舞鶴（田辺）の里のいさなが岳と
いう山に降りてこられました。そして天香具山命という神様が
放つた矢が刺さったところ（公民文名七日市西字鏡の大池）から
湧き出た靈泉を「豊受大神の御供え物としたのが、（真名井の

を『笑原山』と呼んだとある。このあたりの小字名を『天香具山』というのも、この神話と関係がありそうだ。」

全国海人族の本拠地だといわれる宮津市府中にある籠神社の奥宮、真名井神社のある山も「天香具山」という。

また、豊受大神が出て行つたあと、大神を慕いその行方を占つたことから足占山というという説もある。地元には様々な形で豊受大神が生きているのだ。(伴とし子著「卑弥呼の孫トヨハアマテラスだつた」明窓出版刊より)

（昔、（豊受大神）が、この舞鶴（田辺）の里のいさなが岳と
いう山に降りてこられました。そして天香具山命という神様が
放った矢が刺さったところ（公民文名七日市西字鏡の大池）から
湧き出た靈泉を「豊受大神の御供え物としたのが、（真名井の
清水）といわれています。」
この近くの朝代（あさしろ）通りのほぼ中央にある立派な神
社や仏閣に連なる中ほどに素朴な神社（紺屋町）がある。笑顔
神社である。「やはら」と読む地元では、「笑」の字が、よ
く似た「笑」に間違われエバラ

を『笑原山』と呼んだとある。このあたりの小字名を『天香具山』というのも、この神話と関係がありそうだ。」

全国海人族の本拠地だといわれる宮津市府中にある籠神社の奥宮、真名井神社のある山も「天香具山」という。

そして尾張海人族の祖になるこの命が果たした役割は、尾張海人族として大和建国古代史の中で大きなパワーを発揮していくことになる。

補足するなら、現在舞鶴進出企業の多くは第一条件に「水が良い」という。

と読む人が多い。大正四年刊の
加佐郡史も間違っているとわざ
わざ神社の説明書に但し書きが
してある。

「『笑原山』と呼んだとある。このあたりの小字名を『天香具山』というのも、この神話と関係がありそうだ。」

全国海人族の本拠地だといわれる宮津市府中にある籠神社の奥宮、真名井神社のある山も「天香具山」という。

そして尾張海人族の祖になるこの命が果たした役割は、尾張海人族として大和建国古代史の中で大きなパワーを發揮していくことになる。

補足するなら、現在舞鶴進出企業の多くは第一条件に「水が良い」という。

ふるさと 自然と人々

山 下 邦 雄

記憶というものは、不思議なもので故郷を離れて五十九年を経たのに、幼少年時代のこと—故郷の自然や人々が唱歌『ふるさと』の歌のように今も懐かしく鮮明に思い出される。

私の故郷は、百人一首の『由良の門を渡る船人かぢを絶え……』で知られる丹後の由良である。山椒太夫伝説の里で、古くから由良湊と称されていて、北前船の盛んな頃は船頭衆を多く輩出したという。近郷には天の橋立があり、日本海の美しさは天下の絶景。浦島伝説、羽衣伝説もある古代から開けたところである。

宮津と舞鶴が接する由良川は、水量が豊かでゆらゆらと流れ日本海へ注ぐ。その西方、標高六四〇メートルの由良ヶ岳を背にした石浦の地で私は生を

受け、高校卒業まで育つた。

その由良ヶ岳のこんもりとした天王山に『安寿と厨子王』にゆかりの深い如意寺のお大師さんがある。幼稚園のとき、天気の日など先生がよく引率された

ところだ。その日、由良ヶ岳は

高く緑がみごとだった。園児お

よそ五十人、村を一望し前面に

広がる若狭の海を見入っていた。その時中西きり先生が、「海

のずっと向こうの端はどうなつ

てている?」と皆に問い合わせられ

た。はるか水平線をみていた私

は、とっさに、「海と天がひとつ

ついている」と大きな声をあげた。皆もそう思つたにちがいな

い……。

この時先生は、「人が住むこ

の地球は、まりのようになるく、

休むことなく回っている。だか

ら夜と昼があるのだ」と、やさ

しく教えられた。何だかよく分からなかつたが、皆はおどろきながら話を聞いたのだつた。

人は皆ふるさとの山を持つて

いる、という。由良ヶ岳の中腹から山麓にかけての緩やかなス

ロープは、いかにも大山らしくゆつたりとした山容を誇つていい

る。学校登山で山頂に立つたが、その眺望は忘れられない。

終戦直後、国民学校六年の二学期、私は作文に由良ヶ岳について書いた。「どこから見てよそ五十人、村を一望し前面に広がる若狭の海を見入つていた。その時中西きり先生が、「海

敵機のB29や戦闘機が山頂をわがもの顔に飛び交つた。大昔からずっと村の出来事や人々の生活を見つめてきた由良ヶ岳、どんなに悲しかったことだろう

……」。

「私は山に向かつて目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る」(詩篇一二二)

来年(二〇一三)、私は傘寿を迎える。現代は先行き不透明な不信と激動の世の中、生きることの重みをかみしめ、明るく元気に入り歩み続けたい。

の山 仰ぎ見て 慄揚せまらぬ姿に学ぶ

私が生まれ、幼少時代を過ごした故郷。山があり、川があり、金色のミカンが実り、新鮮な海の幸がある。

私は、大自然の中で生まれ育つたことを最高の幸せに思う。

校歌や応援歌のいちばんに登場するこの郷土の山は、意識の深いところで私を支える大きな力になつてゐる。

帰省(かえる)たび ふる里





奉納太鼓



エイハイヤ踊

編集後記
2012 (H24) 11月

今年の夏の電力不足に対応するため、宮津市では全市をあげて節電に取り組みました。由良地区公民館では、電力使用量が高まる午後の時間帯に家庭の電気を切って公民館に集合していただく「クールスポーツ事業」を開催しましたが、利用状況は伸びませんでした。

小学校の子ども達と一緒に競争ができる地区運動会も同日の朝までの降雨にやきもきましたが空中からの人文字撮影も無事に終了しました。

イノシシなどの活動を前に有害鳥獣防護策の設置が各自治会で最盛期を迎えていました。完成後の成果に大いに期待したいと思います。

自動車のハンドルに「遊び」があるように、私たちの心に少し「遊び」を入れて「ゆとり」をもって、日ごろの行動をしたいものです。
(枝川)